



中部大学WEBミュージアム

荒屋鋪 透 (中部大学民族資料博物館長、人文学部教授)



中部大学WEBミュージアムのサイトページ
(中部大学サイト内)

民族資料博物館では2020年から21年にかけて、「中部大学 WEB ミュージアム」の構築を推進する活動をおこなってきました。これは2022年5月11日に公開された、中部大学ウェブサイトのリニューアル公開の一端ですが、大学のホームページをひらき「中部大学について」の下にある「大学の取り組み」から、「中部大学 WEB ミュージアム」を選択くださると検索できるウェブサイトです。タイトル表示にあるように、「中部大学所蔵の歴史資料、コレクション資料について、データベースに登録しているうちの一部を画像と解説で紹介して」います。はじめに「カテゴリー別で検索」を見てください。そこには「中部大学の歴史物語」「キャンパスの美観と芸術作品」「日本産蝶類藤岡コレクション」の項目があります。創立者の三浦幸平先生ゆかりの資料から、瀟洒な洋館づくりの新しい校舎の写真など貴重な大学創成期の姿を回顧することができます。また中部大学春日井キャンパスの庭や校舎の思わぬ場所に展示公開されているアートの数々。さらにギフトチョウなど、歴大な蝶類の標本にみる珍しい蝶類の世界をご覧いただけます。まだ公開のための作業が途中であるため、計96点(内

訳「中部大学の歴史/写真」9点、「中部大学の歴史/図書・文書」7点、「文化史/建築・景観」16点、「文化史/民族・生活全般」10点、「文化史/美術・工芸」28点、「自然史」15点、「技術史」5点、「その他」6点)の検索画像にすぎませんが、少しずつ掲載点数をふやし内容を充実させていきたいと考えています。

この中部大学 WEB ミュージアムの充実には、学園のなかに埋もれた貴重な学術資料の発掘とともに、その資料の保存・公開の道筋をつける作業がともないます。これがなかなか厄介^{やっかい}で煩瑣^{ほんざ}なのです。私が専門とする博物館学の領域と関連しています。つまり収集して公開し保存する作業です。歴史ある大学には大学博物館があり、その大学が専門とする分野別(全専門分野の場合と一部専門分野の場合があります)の学術資料を保存・公開しています。中部大学の場合、国際関係学部の民俗資料室を母胎とした民族資料博物館がそれで、学生と教職員だけでなく一般市民にも公開する博物館相当施設(愛知県認定)となっています。こうした実物展示公開の博物館とはちがう方法で、学術資料を公開できないのかという目標への取り組みが、この新たな試みである中部大学 WEB ミュージアムといえます。まだまだ作業がはじまったばかりですが、「データベースアーカイブ」など基礎データの構築から、「資料の個別情報」の解説まで、学園の様々な部門のご協力をいただきながら、進めていきたいと思ひます。



- ◆巻頭 1
中部大学 WEB ミュージアム
中部大学民族資料博物館長・人文学部教授 荒屋鋪 透
2020・2021 (合併号) 活動報告
- ◆常設展示 2
2020年度の常設展示リニューアル
— コンセプト再考と視覚教材資料の新たな制作と活用
中部大学民族資料博物館 原田 千夏子
- ◆実技講座 4
2020年度(秋学期)特別講座(古典絵画) 随信) 開講
2021年度(春学期)特別講座(古典絵画) 対面) 開講
— 四季を描く(金箋紙・銀箋紙)
日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員 下川 辰彦
- ◆企画展(成果発表展) 5
2019年度 特別講座(古典絵画)受講生作品展 [WEB展覧会]
および展示室における公開展示[学園関係者限定・一般公開日限定]
中部大学民族資料博物館 原田 千夏子
- ◆企画展 6
2020年度/2021年度
「先生が愛したカメラたち～伊藤平左衛門のカメラコレクション展」
中部大学名誉教授・平左衛門カメラ同好会 世話人 内藤 和彦

- ◆座談会・映像記録 7
座談会「平左衛門カメラ同好会の活動について」の記録撮影について
中部大学民族資料博物館長・人文学部教授 荒屋鋪 透
- ◆映像記録 8
新型コロナウイルス対策期間に試みた、企画展等の記録映像の制作について
中部大学民族資料博物館 原田 千夏子
- ◆実技講座 9
2021年度(秋学期)特別講座(古典絵画)[対面] 開講
— 画網に描く(裏面と短冊の制作)
日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員 下川 辰彦
- ◆教育普及活動 9
授業見学における大和絵模写作品と実験研究資料の活用について
中部大学民族資料博物館 原田 千夏子
- ◆実習(補講) 10
2020年度・2021年度 博物館実習(補講)の対応について
中部大学民族資料博物館 原田 千夏子
- ◆交流 11
SDGs フォーラム講師のウズビ・サコ先生の展示室見学
- ◆トピック 12
館リーフレット改訂版の完成/館ホームページデザイン改訂版の公開
- 2023 行事案内 12

4
2020 月
|
9
2020 月

常設展示

常設展示リニューアル

ー コンセプト再考と視覚教材資料の新たな制作と活用

【期間】 2020年4月～9月

【場所】 常設展示室 (シルクロード室、地域研究エリア)、体験実習室

2020年2月に新型コロナウイルス感染症の発生にともない、緊急事態宣言が発出され、予定していた企画展の開催を延期することとなり、館内では、活動計画の見直しが余儀なくされた。そこで、翌年に開館十年目の節目を迎える時期となる点もふまえ、これを機に、これまでの活動を振り返り、来館者から寄せられた声を参考に、常設展示空間の改善対策を行うこととした。特に、様々な形状や素材の資料を所蔵する当館の収蔵資料の特徴を活かした学習テーマを、より具体的にイメージできる展示コンセプトを明確なキーワードで打ち出すことを重視した。



再編後の常設展示室
(第1室 シルクロード室)



再編後の常設展示室
(第2室 地域研究エリア)

■ 常設展示のコンセプトの具体化、および展示資料の選別の見直しと解説パネルの補充

新コンセプト

「陸と海の交流史とともに眺める世界」

「世界史」に登場する交易ネットワーク関係と民族資料

第一室 (シルクロード室) :

民族衣装や関連の装飾品を追加。関連の絵画作品とともに、人間の暮らす姿を連想しやすい資料を選別。

第二室 (地域研究エリア) :

民族の特徴がわかりやすい、仮面、楽器、衣装をメインに選別し直し、地域相互に素材や様式の発展に交流の歴史的背景があるものを中心に解説情報を補充。収蔵点数約4,000点のうち、展示資料を約750点に選定。



展示室に掲示したコンセプト表示



展示室における天然材を用いた
展示資料の配置案内図

来館者の鑑賞の導線を再考し、コーナー配置や展示室全体のゾーニングを再検討したうえで、コンセプトに添う必要な個別の解説情報を補充。資料の展示用の名称についても、来館者がわかりやすい表記を再検討し、さらに館のロゴ入りのキャプションカードを活用するなど視覚的な統一をはかることで、配置する展示室空間において、統一したメッセージ性

を作ることに意識を向けた。特に第二室のゾーニングは、地域間の区分をゆるやかに移行させるため、壁面に貼る布の色を変え、大枠で地域分類を示唆するにとどめた。

資料の選別の経過では、資料の保存状態をチェックするよい機会ともなり、一部の弦楽器を補修し、常設展示でご紹介することにした。あわせて特有の天然材を用

いた資料を強調するため、ポップデザインスタンドを新たに追加設置するなど、鑑賞の導線を整理す

るとともに視覚的なアクセントを加える工夫を取り入れた。施設関連では、スポットライトの増設、耐

震対応箇所を再点検し、彫刻、家具類、楽器等について転倒防止のためのテグス箇所を増設した。



コンセプト風景

地域名称表示（色分け）

エリア表示
導線上で目につきやすく、かつ展示の妨げにならない場所を選び掲示



体験実習室

多目的室



新設したキャプション事例

キャプションは、館のロゴ入り印刷で統一。解説は、コンセプトに沿う内容に改編補充した（左）。個別のデザインポップスタンド（中央）を設置。民族資料特有の天然材を使用した資料に目印をつけた。来館者の導線のアクセントとなり、資料と解説の補助材となる。（パネル各種の作成には、博物館スタッフの創意工夫も加えられた。）

■ 地図デザインパネルの作成

展示コーナーごとに常にコンセプトを意識し、展示資料の成立背景を連想し鑑賞できるようにするために、世界史に登場する交流図を参考に、地図デザインパネルを新規作成した。（「世界史」関係各社の許可申請済）。次はその地図パネルのテーマである。



世界史の交流図をもとにした地図デザインパネルを活用した展示コーナー

地図パネルデザイン名称

【シルクロード室】

陸と海のネットワーク／仏教の伝播

【地域研究エリア】

オセアニア地域：パプアニューギニア／オセアニア～プカルア環礁の人びとの生活

アフリカ地域：1900年頃のアフリカ大陸／アフリカ大陸（現代）

ヨーロッパ地域：モンゴル帝国のヨーロッパ進出／オランダ連合東インド会社航路図
帝国主義／19世紀以降の移民の流れ

アジア地域：ムスリム商人の主な貿易路と主要取引品／東南アジアへのイスラーム伝播／茶馬古道

アメリカ地域：アメリカ古代文明／16世紀の世界の貿易～銀がつなぐ世界史

■ 体験実習室の再編

常設展示のリニューアルに際し、感染症対策のため、民族衣装試着や民族楽器の体験コーナーを利用停止とし、代わりに常設展示室内の一角にある書籍

閲覧のスペースにある備え付けの展示ケースの利用についても見直した。これまでの来館者の声には、世界の地域文化の展示資料を前に、日本との比較につ

いて質問を受ける機会が少なくなかった。そこで、「日本文化」に関連した作品資料を体験実習室で紹介をすることとした。

この部屋では、図書コーナー

で館の発行図録や関連研究者の書籍が閲覧できる他、大型モニターには、国立情報学研究所の作成したデータベースを許可を得て放映し、シルクロード関連の画像資料や地図資料を閲覧できるようにしている。2022年5月以降は、2021年度に開発した公開データベースを閲覧できる環境整備も予定している。

リニューアル後の展示室の様

子は、学園広報部の協力のもと映像に撮影し、DVD記録を交流大学の一つである天理大学参考館の中尾学芸員に見ていただき、貴重な参考意見をいただいた。今後も学术交流に発展させながらよりよい博物館活動をすすめていくよう努力を続けたい。館では、2021年度は、この活動成果をもとに、デザインを一新した館リーフレットの改訂版、館

ホームページ改訂版を作成した。今回の常設展示室リニューアルでは、展示空間全体の統一性を常に意識しつつ、個々の展示資料の特徴を再確認するという機会となった。しかし、学術・教育資料としての活用を念頭にした収蔵資料の取り扱いが課題がなお多い。さらに館内で検討を重ね、少しでもよりよい環境作りを工夫していきたい。(原田)

[主な展示資料]

本学と愛知県立芸術大学との共同研究成果作品他

《模写 源氏物語絵巻 「柏木三」》
《模写 扇面古写経絵図》
《模写 平治物語絵巻 六波羅行幸巻》
当館の2015年企画展制作資料
《日本画の顔料の重ね塗り表現の再現パネル(5点)》

[その他]

収蔵資料テーマ別紹介コーナー
(2022年度現在は「帽子」を紹介)



再編後の体験実習室

9
2020 月
|
7
2021 月

実技講座

2020年度 特別講座(古典絵画) 開講 — 四季を描く(金箋紙、銀箋紙)

【期間】 2020秋学期 [通信] ~ 2021春学期 [対面授業]

2020年9月末~2021年1月末 [通信]
2021年4月21日(水)~7月21日(水) [対面授業]

【場所】 中部大学10号館106 J ゼミ室 [2021年度春学期]



特別講座の教室風景 (左: 講師の下川先生)

受講者数: 9人 [通信]、15人 [対面] (有料・定員制・通年)

指導講師: 下川 辰彦 (日本美術院特待・中部大学民族資料博物館 外部専門委員)
担当: 原田 千夏子 (中部大学民族資料博物館)

箋紙とは、いわゆる色紙で、方形の小型の紙面である。一般的には記念の言葉をしたためて贈答するメッセージボードの役割で親しみがあるが、日本画では、平安時代にまでさかのぼり、屏風絵のなかに和歌をしたためる小画面が起源ともいわれる。後に近世では琳派が、絵や工芸と書が融合される自由な創造を展開していく。現代の日本の生活における室内装飾にはその名残が継承されているといえる。2020年度(秋学期)から一年間の特別講座では、金銀の箋紙を、一人当たり4枚平行して描くという課

題を提案した。各自が自身の思う「四季」を連想し、自由な作品制作にのぞみながら、自身の生活空間に飾る風景を含めて想像をしてもらおうようにした。そのため、専用の色紙掛けを各自で誂え、簡易形式ではあるものの、絹仕立ての地模様のある和の表装に対して、作品との調和を考えて制作をすることにした。

一年間の制作期間では、途中、新型コロナウイルスの緊急事態宣言下では半期休講となった他、まん延防止対策の時期には開講方法がふだんと異なる時期があったものの、講座自体は継続して制作にあ

たり、一年間を通じて活動し、受講生は作品を仕上げるに至った。

コロナ禍となった2020年度の特別講座は、春学期は開講を見送り、秋学期において「通信」による方法により、受講生の作品制作をサポートする活動を試みた。受講生には、新年度の課題にあたる色紙(4枚)と、事前に作成した制作の手順と要点が記載された資料を送った。各自は在宅で作品制作を進め、制作過程において、メールや郵便によって質問や経過状況を画像に映して博物館を経由して指導講師へ伝達する流れをとった。先行きの見えないなか、わずかな質問のみでも、何らかの回答を伝えることで、筆をとる機会を持ち続ける意欲に繋がると思い、提案した。実際に対面でない

と具体的な技法がわかりにくいという声や、制作にむきあうペースが落ちてしまうという声に対しては、2ヶ月に1度、学外で少人数に分かれて短時間ではあったが、制作中の作品を持ち寄ってもらい、制作の経過をみせてもらった。それぞれの作品のモチーフが活かされる構図や色づかひの効果的な要点について、課題テーマの意図を伝えながら説明することで、制作の目的をつかみ直し、自宅での単独での制作に活かすことができるように心がけた。

後半にあたる、2021年度(春

学期)では、大学における、実験実習の授業と同じ対象として含めていただき、対面形式での開講が許可された。やはり、実技指導という点では、対面式でなければ伝えられない部分の多さにあらためて実感した。

全体的な作品の仕上がりとしては、多くが成果をあげており、嬉しく思う。下図制作から彩色にいたる過程において、構成や色づかひ等の技術面では当然のごとく私から助言するが、この他に、最も作品を左右するのは描き手の作品に対する丁寧な姿



特別講座の教室風景

勢である。淡塗を何度も重ねる根気強さ、努力は日々の積み重ねによって徐々に表れてくるといふ要素を継続するなかで作品が応えてくれると気がついていくものと伝えている。(下川)

11
2020 月

9
2021 月

企画展(成果発表展)

特別講座(古典絵画)2019年度 受講生作品展 — 金屏風の右下図制作と作品

【期間】WEB展覧会 2020年11月30日(金)~2021年3月11日(木)
企画展 2021年3月22日(月)~9月30日(木)

(会期中に関係者限定で講評会を実施:2021年9月29日)(うち、一般公開日を事前予約制で6日間設定:9月1日、2日、8日、9日、15日、16日)

【会場】中部大学民族資料博物館 多目的室、
附属三浦記念図書館1階エントランス

主催:中部大学民族資料博物館(出品点数32点)

企画:下川 辰彦(日本美術院特待・中部大学民族資料博物館 外部専門委員)

:原田 千夏子(中部大学民族資料博物館)

入場者数:887名

特別講座(古典絵画)2019年度受講生作品展へは、課題制作となる「金屏風の右下図制作」として、一双(2点一組)の金屏風作品を13点と、自由課題制作、および指導講師の賛助出品を含め計32点を展示した。課題制作においては、小型ながら四曲の屏風仕立ての金地画面に日本画の絵具で彩色をほどこすという点では、非常に難度の高い描写

に挑戦したものである。一双という、2点を対で使用する屏風を想定し、2点の関係性を考える構図を作る構成力も工夫するほどに面白い作品となる。受講生らのモチーフは、聖獣、果実、有職故実、古典的な文様、洋花、旅情ある外国風景など、伝統的な図案を自身の感覚で捉え直して作品に仕上げるよう自由に試み、各自が自身の感覚を通して

創作世界を楽しんでいる趣を全体的に感じられた。会期の終盤に行われた講評会における指導講師からも、各自の作品の着想からそのテーマを活かす表現を工夫する姿勢ができつつあると触れられた。一点一点の特徴に合わせた構成や彩色のより深い指針も提示いただき、講評会参加者は次の制作への意欲を一層高めることとなった。

屏風絵は日本家屋の室内装飾として、年中行事の祭礼に応じて相応しい花鳥風月のテーマを選び入れ替える。収納には折り畳み、飾りつけには角度をつけて自立させる形状になっており、陳列時の見え方を想定して画面構成がとられる。本講座の制作では、実際に制作を行うことで、屏風の表装の構造的な特徴を具体的に理解する機会となり、今



受講生作品展ポスター



特別講座受講生作品展の講評会の様子

後、美術博物館で同様の作品を目にした際により深い鑑賞を通じていくことだろう。

2020年3月から4月に予定していた作品展は、コロナ禍において延期とし、同年の秋から年度末にかけて、館ホームページに展示作品の画像を掲載（および大学ホームページの催事案内）し、館では初のWEB展覧会として、館のホームページへ企画展に合わせて制作した記録集

の作品掲載ページ画像を掲載した。また同ページはWEB展覧会開催期間に大学トップページの催事案内からもリンク設定し、ウェブ上にて学外公開をした。

さらに、実際の作品の展示を、当初予定のほぼ一年遅れとなる2021年3月から開催した。

しかし、大学における感染症対策はひきつづき行われることから、館内への入場は学園関係者限定とし、感染症の収束を待つこ

ととした。会期を9月末までの半年の期間に長く設定した点も、できるだけ一般へ公開できる時期を設けたいとするためであった。期間中に、公開再開時期について問い合わせを多数いただいたことから、一般希望者には、大学が夏休み期間である9月の3週間のみ、事前予約制で少人数グループに分かれての受入れを行った。（原田）

3
2021 月
|
9
2021 月

企画展

2020年度／2021年度 中部大学民族資料博物館企画展 「先生が愛したカメラたち ～伊藤平左エ門のカメラコレクション展～」

【期間】2021年3月22日(月)～9月30日(木) [学園関係者限定]

(うち、一般公開日を事前予約制で6日間設定：9月1日、2日、8日、9日、15日、16日)
(会期終了後に関係者限定で座談会を開催：2021年10月8日)

【会場】中部大学民族資料博物館 シルクロード室、
附属三浦記念図書館1階 エントランス

主催：中部大学民族資料博物館
(出品点数 関連資料を含め84点・うちカメラ機器52点)

協力：中部大学平左エ門カメラ同好会

入場者数：887人(うち一般公開日の来館者数 一般55人)

本展示会の会期・来館者等は上記のとおりである。

なお、6月1日(日本人が初めて写真撮影した日とされるカメラの日)に予定していた講演会はコロナ蔓延のため中止された。

2008年より「中部大学平左エ門カメラ同好会」が行ってきた企画展示「伊藤平左エ門のカメラコレクション展」は2014年の第5回展示で一区切りを迎えている。展示会ごとに資料整理した結果をまとめて目録(冊子製本)を作成するという当初の目的が達成された為である。目録は2016年に上梓され、その後、2019年の第8回展示までは本同好会が主体的に企画・開催してきた。2018年、コレクションカメラの保管を民族資料博物館に移すことが決まり、これを機として中部大学民族資料博物館主催になる本展示会が企画されることになった。従って、作業は博物館主導が進められたが、この展示会が

我が同好会にとっては第9回目の総括的意味を持つ展示会に位置づけられたことから、全面的に協力させていただくことになった。

展示内容については、本展示会にあたって博物館と私共との共同で製作したパンフレット(図録)に詳しく掲載されているので、ご参照いただきたい。

2年越しのコロナ蔓延の影響で一般公開日はわずか6日間、残りの99日は大学関係者のみの公開であったが、予想以上の来館者数と高い評価を得たことである。また、来館した学生の意見をきっかけにYouTubeへの展示室風景の動画配信が実現している。学園広報部の協力を得てのコロナ禍ならではの初の試みだったという。

コロナ禍の展示会としては上出来だったと言ってよいだろう。荒屋鋪館長をはじめとする博物館スタッフの方々の尽力に感謝したい。同時に、あらためて伊藤



カメラコレクション展案内
表面(上)・裏面(下)



平左エ門先生自作のカメラ(中央)

先生のコレクションカメラの質の高さを証明できたようにも思う。しかし、博物館に移管された「先

生が(我々も)愛したカメラたち」の行く末(メンテナンス等)については一抹の不安は残る。今後

の博物館の対応に期待しつつ、もう少し見守っていきたく思っている。(内藤)



カメラコレクション展の会場風景

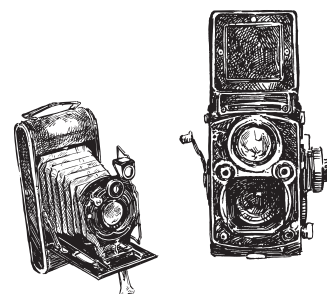
10
2021 月

座談会・映像記録

座談会「平左エ門カメラ同好会の活動について」の記録撮影について

日時 | 2021年10月8日(金) 14:00~16:00
会場 | 中部大学民族資料博物館 シルクロード室

題目: 座談会「平左エ門カメラ同好会の活動について」
参加: 中部大学平左エ門カメラ同好会
荒屋鋪 透(中部大学民族資料博物館長、人文学部教授)
司会: 内藤 和彦(中部大学名誉教授・平左エ門カメラ同好会 世話人)



2021年度の中中部大学民族資料博物館は企画展覧会として『先生が愛したカメラたち～伊藤平左エ門カメラコレクション展』を開催した。会期は2021年3月22日(月)から9月30日(木)、会場は民族資料博物館シルクロード室である。主催は中部大学民族資料博物館、また中部大学平左エ門カメラ同好会の協力を得た。

この企画展終了後の2021年10月8日(金)、民族資料博物館の会場で平左エ門カメラ同好会による関連座談会を開催した。座談会の司会は同好会世話人である内藤和彦・中部大学名誉教授にお願いし、座談会の撮影記

録を中部大学学園広報部制作課の野寄誠・担当課長が行った。実は民族資料博物館ではカメラの日である6月1日、同好会による公開シンポジウムと関連座談会を予定していたが、コロナ感染症の拡大で中止せざるを得なくなった。しかし同好会と関係者による座談会を10月8日非公開で行い、その記録を冊子と記録動画のかたちで残すことが出来た。

中部大学の伊藤平左エ門名誉教授(工学部在職:1966~1995年)が長年、収集したライカ、ローライ、ミノックス等のカメラコレクションは、伊藤平左エ門名誉教授(1922~2004)が亡くなった後の2006年、奥様の光代夫人から中部大学に遺贈され、同好会が保存、保管、公開展示などを行ってきたが2018年、民族資料博物館に大学管財部から移管された。このカメラコレクションは中部大学の学術資料として非常に貴重で重要であり、その特徴とコレクション収集の経緯、また教育者としての平左エ門先

生、さらにその遺志を継いだ同好会の活動などを紹介するのが、本展の目的であった。

内藤和彦名誉教授と同好会の方々はその主旨に賛同くださり、精力的に展覧会の内容、図録の作成、展覧会場で放映された記録映像、たとえば中部大学春日井キャンパス中央にある工法庵(利休茶室、国宝「符庵」復元)の造営の映像、また洞雲亭(香川県小豆島にある真言宗の寺院、洞雲山観音寺)移築の記録映像、またカメラ操作などの映像の作成を、民族資料博物館スタッフと共に行っていただいた。当初、民族資料博物館が構想した以上の成果を、同好会と関係者の方々のご協力であげることが出来たのである。

最後になるが、この展覧会にご協力いただいた、ご遺族の伊藤光代氏、平山厚子氏、また伊藤平左エ門建築事務所、中部大学の内藤和彦名誉教授と平左エ門カメラ同好会の皆様、深く感謝申し上げたい。(荒屋鋪)



座談会撮影風景

新型感染症対策期間に試みた、 企画展等における記録映像の制作について

2020年度および2021年度に開催した企画展「先生が愛したカメラたち ～伊藤平左エ門カメラコレクション展」は、伊藤平左エ門名誉教授(1922～2004)より中部大学へ遺贈されたカメラコレクション約120点のうち、ライカ、ローライ、ミノックスといった、戦前から戦後にかけてのグラフィジャーニズムの分野で世界的に人気を博したドイツ他、海外のカメラシリーズを中心とした厳選50点余りを一堂に展示するものである。本コレクションの主要なカメラ機器全体を展示室空間

で披露するのは今回の企画展が初めての試みとなり期待が込められた。

しかし、感染症のまん延時期は、本学においても例外なく、オンラインによる会議や授業の実施方法が本格的に導入され、講演会等の各種の企画催事はオンラインでの開催が主流となった。博物館という立場である当館では、これまで実物資料の整理保存、紹介を活動の優先順位にあげてきた。それが企画展自体の開催ができないという事態となり、外部発信する機会を逸する懸念

から、初の試みとして手探りではあったが、学内外の協力支援を得て各種の映像資料の制作を試みた。それにより、ホームページ上における情報配信を少しずつでも滞ることのないようにした。*

本企画展では、当初より展示室における2種の映像資料放映を計画していたので(映像記録2および3)、その制作を終えて会期が始まった段階でYouTube配信用の映像撮影制作を行った(映像記録1)。

*その他、当館では2020年度に実施した常設展示室のリニューアル記録を映像に収めた。また、企画展のうち一般対象の公開講座の成果発表展である「特別講座(古典絵画)」の作品展は、会期延期期間のうち約3ヶ月間にわたりWEB展覧会と称してホームページ上に作品画像を掲載した点については別記のとおりである。いずれも撮影および編集は、学園広報部制作課による。御協力いただいた各位へこの場をお借りして感謝いたします。(原田)



中部大学公式YouTubeチャンネル配信のトップ画面(映像記録1)
<https://www.youtube.com/watch?v=QK0IUph5StE>

映像記録1 (中部大学公式YouTubeチャンネル配信)

- 題 目 : 企画展「先生が愛したカメラたち
～伊藤平左エ門カメラコレクション展」展示会場映像
- 所要時間 : 3分40秒
- U R L : <https://www.youtube.com/watch?v=QK0IUph5StE>
- 構 成 : 1 中部大学名誉教授 伊藤平左エ門先生の建築研究関連資料紹介
2 カメラコレクションの展示風景(ライカ/ミノックス/ローライ)
3 同好会紹介(カメラ取り扱い動画放映コーナー/写真作品展示コーナー)

映像記録2 (企画展会場で映像放映)

- 題 目 : カメラ機器の取り扱い記録映像
(中部大学 伊藤平左エ門カメラコレクションより)
- 所要時間 : 17分38秒
- 原案・出演 : 中部大学平左エ門カメラ同好会
- 構 成 : 1 How To Use A Barnack Leica (バルナックライカの取扱い方)
2 How To Use A Rolleiflex (ローライフレックスの取扱い方)
3 How To Use A MINOX A (ミノックスAの取扱い方)

映像記録3 (企画展会場で映像放映)

- 題 目 : 中部大学の「書院」
建築過程に関連する記録映像(一部抜粋1988年頃～1990年頃)
- 所要時間 : 15分33秒
- 構 成 : 1 工法庵(利休茶室の復原建築)の制作風景(1988年頃～1990年頃)
2 移築前の観音寺[観音寺(香川県小豆島)からの移築風景]
3 洞雲亭(観音寺庫裏の移築再現建築)の制作風景
(1989年頃～1991年頃)
- 協 力 : 観音寺(香川県)、伊藤平左エ門建築事務所



企画会場での映像紹介の様子
(映像記録2)



企画会場での映像紹介の様子
(映像記録3)

10
2021 月7
2022 月

実技講座

2021年度 特別講座(古典絵画)開講
— 画絹に描く(扇面と短冊の制作)

| 期間 | 2021(秋学期)～2022(春学期)

2021年10月6日(水)～2022年1月19日(水)

2022年4月27日(水)～2022年7月27日(水)

| 場所 | 中部大学10号館106Jゼミ室

受講者数：15人(有料・定員制・通年)

指導講師：下川 辰彦 (日本美術院特待・中部大学民族資料博物館 外部専門委員)

担当：原田 千夏子 (中部大学民族資料博物館)

特別講座の教室風景
(右：講師の下川先生)

2020年度が半期遅れの開講となり、通年の場合の後半にあたる半期を2021年度の春学期まで継続して行ったことから、次の新年度の講座はそのまま半年ずれ、2021年の秋学期より開講した。2022年度の春学期までの一年間を予定している。

課題テーマは、絹絵を「扇面と短冊」の2種の作品を制作する。まず1点目は、扇面の作品制作である。扇面を描いた絵画は、平安時代には奉納絵として描かれた他、屏風絵の装飾モチーフとしても描かれた。近世の琳派や土佐派の作品にもみられるように、花鳥風月を描き入れた扇面を屏風に「散らし」て描くものなどは華麗であるが、講座における作品制作では、古画の作品を参考に模写をする者、新たに図案を考える者とそれぞれ自由に取り組んでいる。

描き手の観点からみれば、扇面、という湾曲した画面にモチーフの配置構成を考えるにあたり、形のとり方はもちろん方形の画面とまた異なり、画面の形を活かした効果を考案するために図形の性質から画面構成における、日本画特有の「余白」に対する考え方を理解する必要がある。この難しさをどのように解決していくかが、今回の課題テーマの一つといえる。この構図の学びは、いずれ風炉先屏風の制作へと展開していきたいと考えている。

また、本講座では、2点目の制作として、さらに、絹絵を「短冊」の形状で2点制作し、表装に仕立てることにしている。モチーフや組み合わせの配置や大きさのレイアウトは、受講生各自の試みにまかせる。一点一点は小品であるが、組み合わせの関係

性のなかにどのような物語を編むか、それぞれの想像力に大いに期待している。制作途中の難点や迷いに対しては、さまざまな解決方法をともに思案し、手助けしながら作品の完成へと導いていくつもりである。

これまで、基底材を和紙のみでなく、絹や板に描く試みも幾度が課題にもりこんできたが、今回は、さらに画面の形状が異なる作品を複数点制作し、作品を組み合わせると一つの作品世界を作り上げるという工程を前提に、表装を含む作品全体を総合的に構想する観点をもつ、という目的もある。日本画におけるさまざまな作品形式を、現代の室内空間で鑑賞をいかに楽しむもののできるか、受講生各自が自身の作品を通じて考える場になればとも思う。

(下川)

11
2020/2021 月

教育普及活動

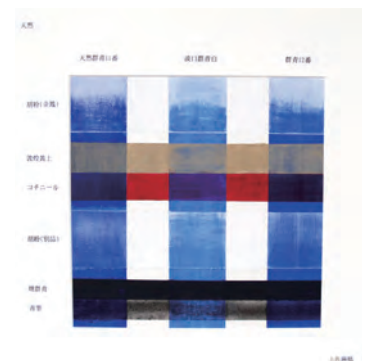
授業見学における大和絵模写作品と
実験研究資料の活用について

解説担当：原田 千夏子 (中部大学民族資料博物館)

2020年度、2021年度は、大学における感染症対策の指針にもとづき、博物館展示室は学内関係者限定での開館を続けている。この期間においては、本学のCAACのカリキュラムのうち、「旅と文学」の連続授業で、岡本美和子講師担当時間のなかで、毎年秋学期に大和絵の模写作品(源氏物語絵巻 柏木三)

の作品鑑賞のために授業見学が行われた。少人数での開講である点と、鑑賞をメインとする前提で作品解説の対応をさせていただいている。

これらの大和絵の模写作品は、素材研究をテーマにした企画展への出品や、一般対象の日本画実技制作の公開講座の作品展への出品など、当館における

天然顔料による重ね塗りの色見本
(実験パネル)

鑑賞教育に幾度も紹介している。もともと、本学と愛知県立芸術大学との共同研究制作で、原本

は国宝や重要文化財に指定されている優品である。その再現模写作品を、日本画の専門家が制作した点でも、教育的価値が非常に高い参考資料で、当館では、世界の地域の暮らしを資料紹介するなかで、素材の点から、日本の独自性を考察する資料として、日本画の材料や表現の発展に焦点をあてており、世界のさまざまな地域における天然材と比較考察する事例として紹介している。CAACの岡本講師は、「源氏物語」を文学の立場で講義される折に、こうした絵画資料を、平安時代における美的感性や美意識を具体的に感じ取るための視



2021年度のCAAC連続講座内での
作品鑑賞の様子

覚教材として活用されているのである。

見学では、ふだんガラスケースを通して展示している作品を、ケースからとりだし、近接して鑑賞できるようにしている。大和絵特有の「引き目鉤鼻」や「作り絵」による人物の繊細な彩色表現を忠実な筆線で再現されている様子や、平安時代の天然顔料の深い色合いを現代の材料で限りなく近づけようとする試みがされた画面に近づいて顔料の美しさをみていただくためである。一般的に指定文化財の作品は、照明を落として暗い空間で、ガラスを隔てた距離で鑑賞することが多いところを、当館では、原本の姿に近い模写作品を明るい照明のもと近づいて見ていただくことができるのである。さらに2021年度は、実際に平安貴族が室内で絵巻物を鑑賞していた当時の姿を体感においても感じ取っていただこうと思い、室内の床面にシートを敷き、座観で作品を鑑賞する時間も設けた。現代では、一般的には日本画に触れる機会

が非常に少なくなった生活空間にあるなか、着物や工芸のなかに継承されている、日本の伝統的な彩色美をいま一度感じ取っていただく機会になれば、と思っている。

解説では、当館で2013年に制作した、天然顔料による重ね塗りの色見本(実験パネル)も併せて資料として活用しながら、日本画における岩絵具に、数多くの色調が生み出され、透明感と深みのある美しい彩色を実現できる様子を実際に目で見て感じ取ってもらう機会としている。また、模写制作にあたり、制作にあたった画家らが、作品本来の美しさの継承を念頭に、原本の折り目や絵具の剥落などをできるだけ残し、作品上の時代の経過にともなう古色を含めて再現する試みも模写に携わった研究者のあいだでは重要な制作課題であったというエピソードなど、伝統的な技法の継承に関する話題を挙げ、日本における文化財保存活動の一面として、制作現場の視点も加えている。(原田)

10
2020 月

実習(補講)

博物館実習(補講)の対応について

■ 期間 ■ 2020年10月19日(月)～11月11日(水)
2022年1月12日(水)、18日(火)、25日(火)

■ 会場 ■ 中部大学民族資料博物館

補講者数：2020年度 11人／2021年度 2人

担当：原田 千夏子(中部大学民族資料博物館)

当館は、2015年2月に「博物館相当施設」指定を受けた施設であるが、専門的な施設整備や組織体制が不十分である点から、本学学生の博物館実習は、学外の機関で受講することが基本になっている。しかし2020年度、2021年度は、新型コロナウイルス対策で緊急事態宣言やまん延防止対策がとられる期間に実習が中断されてしまうという事態が発生したことで、その不足時間数の補填をする必要が生じ、当館での博物

館実習の補講の実施を、博物館学芸員課程担当教員である荒屋鋪館長の判断のもとで決定され、一部の学生の不足日数分の補講対応をした。

1年目は人文学部4年生11人、2年目は人文学部4年生2人を受け入れた。授業時間との兼ね合いから、2人一組となって各組3日間(不足時間数に応じて4日間の学生もいる)のとり組み内容を考えた。博物館職員の日常業務と平行して断続的に、個別に順次



博物館実習補講

グループの進行に合わせて対応する点は非常に時間の配分に難点があることを想定し、課題を提供しグループ学習により進行するカリキュラムを準備した。時間

数を多く受講する者については、これに実践的な資料作成(スタンド型の解説文用ポップデザイン)を追加で課した。2日目には、この視覚資料の作成を2つめの課題として課した。全ての補講受講者は、あらかじめ短期間ではあるが、学外の美術博物館における実習を経ているので、学芸員の活動に関する基礎知識は認識しているものとし、当館における活動の概要説明は端的に示すとどめた。運営組織面の説明の他は、主に民族資料を扱う館としての難問である、資料保存活動の実情について記録をもとに説明する点に特化し、むしろ、受講生がより実践的に展示資料に関わる時間を多く割くようにした。

そのための課題は、若者を対象に展示資料を紹介するキャッチフレーズ、コメント文を作成するというものである。文献調査やチームでの討論を経て、最終的に高校生や大学生の興味関心を得ることのできる語句を選び完成させる。対象や目的に応じて多くの情報のなかから必要なものを選別し、チームで協力して練り上げ、他者へ響く言葉を工夫し、限られた短い文章によって、自分の言葉に咀嚼して形にする、という一連の行為を体験する場とした。

情報の受け手を連想しながら情報を発信する、こうした鍛錬は、いうまでもなく、学芸員のみならず、社会人となった際に、なんらかの場で求められる表現能

力の一つであることからとりあげてみた。実習内では、課題の目的と、提出物への評価基準を端的に説明しながら、目的意識を明確にして課題にあたってもらうよう心掛けた。一部、説明不足からか、はじめ理解されていない様子もみられたので、説明の仕方を工夫し補足しなければならない場面もあったが、最終的には、目的を理解できた学生は目に見える成果となってあらわれた。

次にこうした機会がある場合は、図示で示すパワーポイントなどの資料を事前に用意し、私自身においても意図の伝達のために説明方法をより改善工夫してみたいと思っている。(原田)

2
2022 月

交流

SDGs フォーラム講師のウスビ・サコ先生の展示室見学

| 日時 | 2022年2月11日 (金)

解説担当：荒屋鋪 透 (中部大学民族資料博物館館長)

中部大学で行われたSDGsフォーラム(主催 中部ESD拠点協議会、共催 中部大学 国際ESD・SDGsセンター、中部圏SDGs広域プラットフォーム)に、特別講演の講師として出演されたウスビ・サコ先生(京都精華大学長)が、学内施設見学の時間のなかで、民族資料博物館の展示室へ関係者の皆様と訪問されました。サコ先生は、アフリカのマリ共和国のご出身で、京都大学大学院工学研究科建築学専攻で博士課程を修了され、空間人類学をご専門に社会

と建築の関係性をご研究されていることから、当館の常設展示室では、特に地域研究エリアのアフリカ地域ゾーンに展示中の、「松浦コレクション」(元ユネスコ事務局長の松浦晃一郎氏

が収集、寄贈のアフリカの仮面や木彫資料：現 学校法人中部大学学事顧問)のコーナーに関心を寄せていただき、当館の荒屋鋪館長と現地の文化資料について談話されました。



サコ先生(左)と談話する荒屋鋪館長(中央)



講演関係者の皆様と見学されるサコ先生(左)

民族資料博物館リーフレット、ホームページが新しくなりました

— 2020年度の常設展示リニューアルにともない、館の広報ツールのデザインを一新

館の学習テーマ「比較文化」「素材研究」を、次の2大コンセプトからイメージする世界観をもとに、収蔵資料を紹介します。

「陸と海の交流史とともに眺める世界」

「世界史に登場する交易ネットワーク関係と民族資料」

■ 2021年度作成の館リーフレット改訂版
(表裏・B43つ折)



■ 2021年度作成の館専用ホームページ
デザイン改訂版 (トップ画面)



<https://www3.chubu.ac.jp/museum/>



古地図を連想させるデザインに展示資料が浮かび上がるスライド画像です。

新たなニュース配信の場、「ピックアップ情報」をバナーに設けました。



※2022年7月現在は「中部大学WEBミュージアムについて」に変更

2022 行事案内

◇ 「中部大学 WEB ミュージアム」の公開

2022年5月、民族資料博物館、および中部大学の収蔵資料データベースの一部を紹介する「中部大学 WEB ミュージアム」が、中部大学ホームページで公開されます。<https://www.chubu.ac.jp/about/web-museum/>



◇ 2022 企画展

特別講座 (古典絵画) 2021 秋学期～2022 春学期受講生作品展

(2023年春季予定)

◇ 2023 企画展

アフリカ木彫展 (仮称) (2023年秋季予定)